

フォレストニュース

植林が地球を救う

平成30年(2018)8月10日

No. 128

発行 高津啓洋

夏季1日セミナー



猛暑の夏、7月21日、国立オリンピック青少年総合センターで、高津理事長らによる、パンタナール1Dayセミナーが行われました。南北米福地開発協会との共催です。ただ、連日の危険な猛暑の中での

セミナーであったため、参加する人にとっては大変な1日でもありました。

参加人数も当日申し込みもあり、講師・スタッフを合わせると104名となり、過去最高となりました。

午後は12時40分から、

地球の緑を守る会理事長の高津先生による講義から始まりました。屋外でのフィールドワークは猛暑のため中止し、ポットの苗木を使っの研修会場での説明となりましたが、環境問題に関する講義に引き付けられると共に、特に



今回は、西日本の山崩れの原因及び、どのようにすれば自然豊かな森が形成されるか等貴重な話がありました。

参加者の感想です。

パンタナールでは実際にどのような活動をしているのかを知ることが出来てよかった。パンタナールの植樹活動や養殖は本当にただ現地の人のために一心で行ったことなんだということが伝わってきましたし、苦勞してきた内容が今では大統領にも影響を与えるということを知り、自分も頑張りたいと思いました。

レダ産のハチミツ

8月に、レダで体験奉仕をしている野口優太君が帰国します。日本でハチミツ採取をして、道の駅などで販売をしましたという経験の持ち主です。意欲をもってレダでのハチミツ採取に挑戦しました。

レダ産ハチミツの特徴は、無農薬であり安全であること。また、自然が豊かなところで、常に様々な花が咲いていることです。

また、レダにはたくさんのニームの木が植林されていて、たくさんの花をつけています。ニーム自体が、村の薬局とインドのアーユルヴェーダにあるように、古代から聖木として大切にされてきた木です。レダにもニームの林が大きく広がっ



パブロ君がきれいに下草刈り

ています。これらから採れたハチミツやプロポリスは素晴らしい働きがあると思われれます。成分分析がされれば、レダ産のハチミツは将来に大きく期待されるものとなるでしょう。

野口君が、ハチミツ採取に取り組むのを全面的に応援してくれているのが、吉村敏明社長です。吉村社長は、2千本以上の木をレダに植樹支援をしてきてくれています。花のなる多くの木々であふれるレダは、将来パラグアイでもハチミツ産業に一大生産地の基礎をつくるものとなるでしょうと、大きな期待がかけられています。

